

## 県主催就職イベント来場大学生への地元業界・企業を紹介する資料作成

指導教員 金沢星稜大学 経済学部 准教授 奥村実樹  
 参加学生 稲原悠・宇治山春希・篠田菜摘・曾谷優太・田中晴海・田畑快・富田桃花・  
 筒前新大・中田佳織・野村航大・前川百花・増田晴香 以上3年  
 井上椎名・裏野ひかり・大野舞香・沖津心・経塚菜摘・小崎七瀬・  
 酒井智世・嶋紀香・杉谷泉水・瀧元菜緒・玉川真帆・中嶋唯菜・中橋華・  
 西川舞・布川実優・濱谷美里・松岡咲菜・森本彩花・安井かのん・  
 安田智美・竹田愛梨・馬場咲圭 以上2年

### 1. 活動の成果要約

業種ごとに代表的な石川県の企業を分類し、事業ごとに適切にマッピングしたものを作成することで、一目で企業の特徴が分かる利用者にとって有益な資料を作成していく。可能であれば、14業種250社近くをとりあげ資料化し、地域要望団体主催による2020年3月7日実施予定の就職フェア（合同説明会）にて、作成資料を配付したい。

### 2. 活動の目的

石川県に本社を持つ企業は、製造業では、原材料や部品、工作機械といった企業向け製品を手がける企業が中心であり、企業の知名度は県民の間でも必ずしも高くはない。また、小売・サービス業の場合は、県内企業かどうか店舗外観はもちろん、商品・サービス構成を見ても判断は難しい。そのため、県内企業の“存在”を認識できるようなものを、就職活動を控える学生を中心に、社会に向けて提供することは意義があると思われる。

### 3. 活動の内容

これまで、2015年から同活動を開始し2018年までに、12業種200社以上の資料を完成させている。同資料は、現在、金沢星稜大学のHP内にある、ゼミ紹介ページの奥村ゼミのところから閲覧が可能となっている。『いしかわ業界マップ2018』（<http://www.seiryo-u.ac.jp/u/new/rbjedl00004klqz-att/rbjedl00004klqy5.pdf>）。今年度は、それにサービス業を新たに追加作成するのと同時に、これまでの12業種200社以上の内容を更新し、それを各企業に提示し承諾をいただく。最終的に、それらをまとめて公表するという流れを予定している。

#### <3年生>

新規業界を追加する役割の3年ゼミ生は、グループワークを中心に、追加する業界についての学習とその企業の選択について、特に9月からの後期授業にて考えていった（写真1と写真2）。その学習内容の確認のために、12月2日に、サービス業の企業として、IT/電子業界からアイ・オー・データ機器と、サービス業界からフラワーガーデンの社員と、連携地域団体となる石川県商工労働部職員を招き、『いしかわ業界マップ掲載企業との交流会』を実施した（写真3と4）。なお、このときの様子は、金沢星稜大学HP内のNEWS & TOPICS [2019年度]に、【経済学部／奥村ゼミナール】「いしかわ業界マップ掲載企業との交流会」を実施しました！（<http://www.seiryo-u.ac.jp/u/new/2019/12232019.html>）と、『いしかわ業界マップ（金沢星稜大・奥村ゼミ）のブログ』（<https://ameblo.jp/ishikawagyokai/>）「いしかわ業界マップ掲載企業との交流会！」にて紹介している。



写真1 ゼミ3年生授業風景



写真2 ゼミ3年生授業風景



写真3 『いしかわ業界マップ掲載企業との交流会』より



写真4 『いしかわ業界マップ掲載企業との交流会』より

<2年生>

これまでの12業種200社以上の数字部分を中心に更新し、その点を含み各企業に修正希望がないか問い合わせる役割の2年ゼミ生は、前期に石川県の各業界について学習した後、主に9月からの後期授業にて、その問い合わせ、修正活動に取り組んだ(写真5と6)



写真5 2年ゼミの授業風景

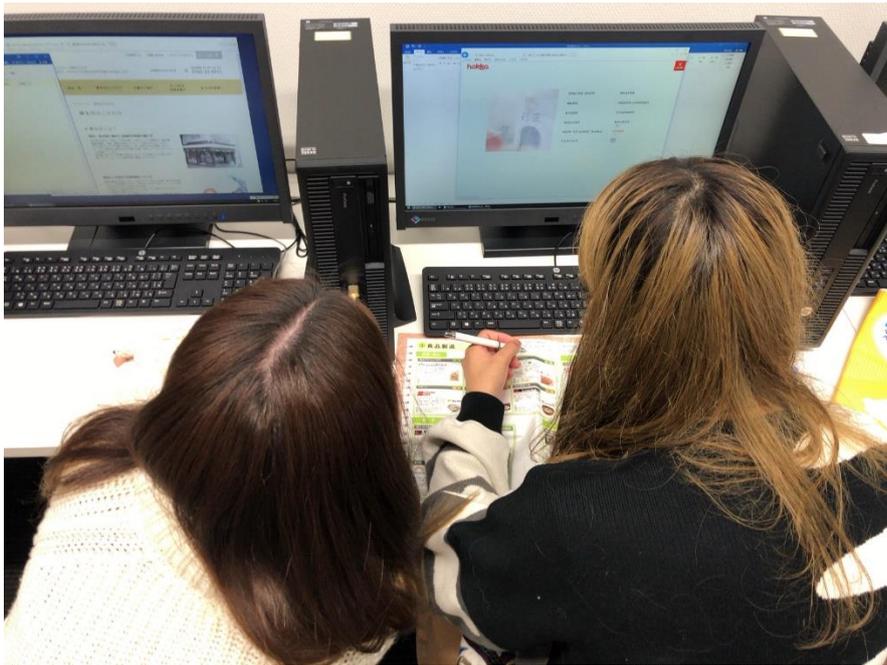


写真6 2年ゼミの授業風景

#### 4. 活動の成果

参加した学生の意見からは、「知らなかった石川県の企業の魅力を改めて知ることができた」というものが多かった。例えば、業界マップの作成や修正を通して、業界ごとに企業の類似点や違いを比較しまとめる必要があったが、比較するためにその企業を調べる際、創業者や経営者の会社に対する強い思いでもある「企業理念」が各社に存在することなど、今までは着目しなかった点を見るようになったという感想があった。また、一社一社のホームページとも時間をかけてその企業について知ってもらおうという意気込みが伝わってきたという感想もあった。

他には、メールや電話での問い合わせの際に、ビジネスマナーが必要となるため、改めて学習内容を確認するとともに、今後の自身の就職活動までに十分に身につける必要があることを実感した。

#### 5. 次年度の計画

この活動は資料作成型であるため、作成した資料を社会的により周知していけるよう努力していく必要がある。資料はイベント配付分に加え余分はあるが、広く社会に還元するために大学のホームページ上に掲載し、オープンアクセスできるようにしていくことも、引き続き検討している。

また、今後、資料としては、企業、業界情報の更新を定期的に手がけていく必要があると思われる。

#### 6. 活動に対する地域からの評価

従来、行政としての石川県が手がけてきた地元企業ならびに業界に関する資料とは異なる着眼点のものを、大学ゼミナールの活動だからこそ、制作できたと思われるとの評価をいただいている。大学ゼミ提案型の形はこのような活動においてもっと増加してもよいのではないかとゼミ担当教員としても感じている。

また、地元企業への就職を考える大学生と同世代の学生が作成した資料のため、より資料を見る対象の学生に共感を得るものができるのではないかと期待があると伺った。行政などの資料に学生が参加するものが今後も増えていくと思われるので、その先行事例の一つとして位置づけてもらえればゼミとしては大変光栄である。